

第 20 回 九頭竜川水系足羽川ダム 事業費等監理委員会資料

－足羽川ダム建設事業－

令和 8年 7月 14日



足羽川ダム工事事務所

目次

I. 足羽川ダム建設事業の概要

II. 事業の進捗状況

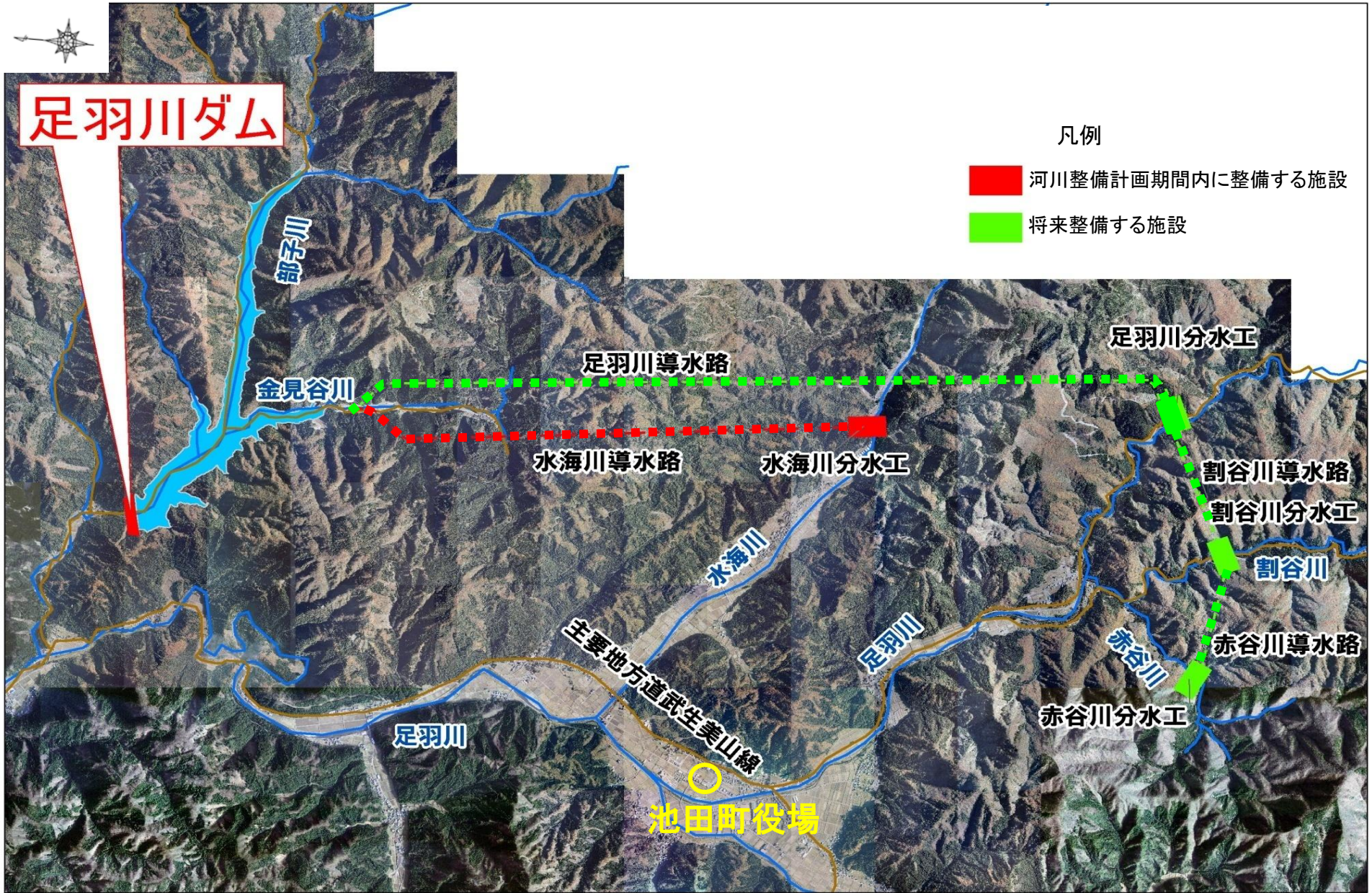
- ①令和8年度実施内容
- ②事業進捗
- ③前回委員会以降の取り組み報告

III. 委員会における指摘事項

IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

I . 足羽川ダム建設事業の概要

I. 足羽川ダム建設事業の概要



至
福
井
市

至 南越前町

I. 足羽川ダム建設事業の概要

○場 所 : 福井県今立郡池田町小畑地先（九頭竜川水系足羽川支川部子川）

○目 的 : 洪水調節（足羽川、日野川、九頭竜川の洪水防御）

○堤 体

- ・ 型 式 : 重力式コンクリートダム（流水型ダム）
- ・ 堤 高 : 96.0 m
- ・ 堤頂長 : 約 351.0 m
- ・ 天頂標高 : 標高 271.0 m

○ダム洪水調節地

- ・ 集水面積 : 約 54.9 km²（直接流域：34.2km² 間接流域：20.7km²）
（基本方針対応での計画 約 105.2 km²）
- ・ 湛水面積 : 約 94 ha
- ・ 常時満水位 : ー（常時は空虚）
- ・ 洪水時最高水位 : 標高 265.7 m
- ・ 総貯水容量 : 28,700,000 m³

○導水トンネル（基本方針対応での計画 4川導水）

- ・ 区間距離 : 約 4.7 km（部子川～水海川）
- ・ トンネル径 : 8.5 m（ " ）

○分水堰（基本方針対応での計画 4分水堰）

- ・ 堤 高 : 約 19 m（水海川分水堰）
- ・ 堤頂長 : 約 94 m（ " ）

注）「河川整備計画」期間内に整備する施設の概要を示しています。

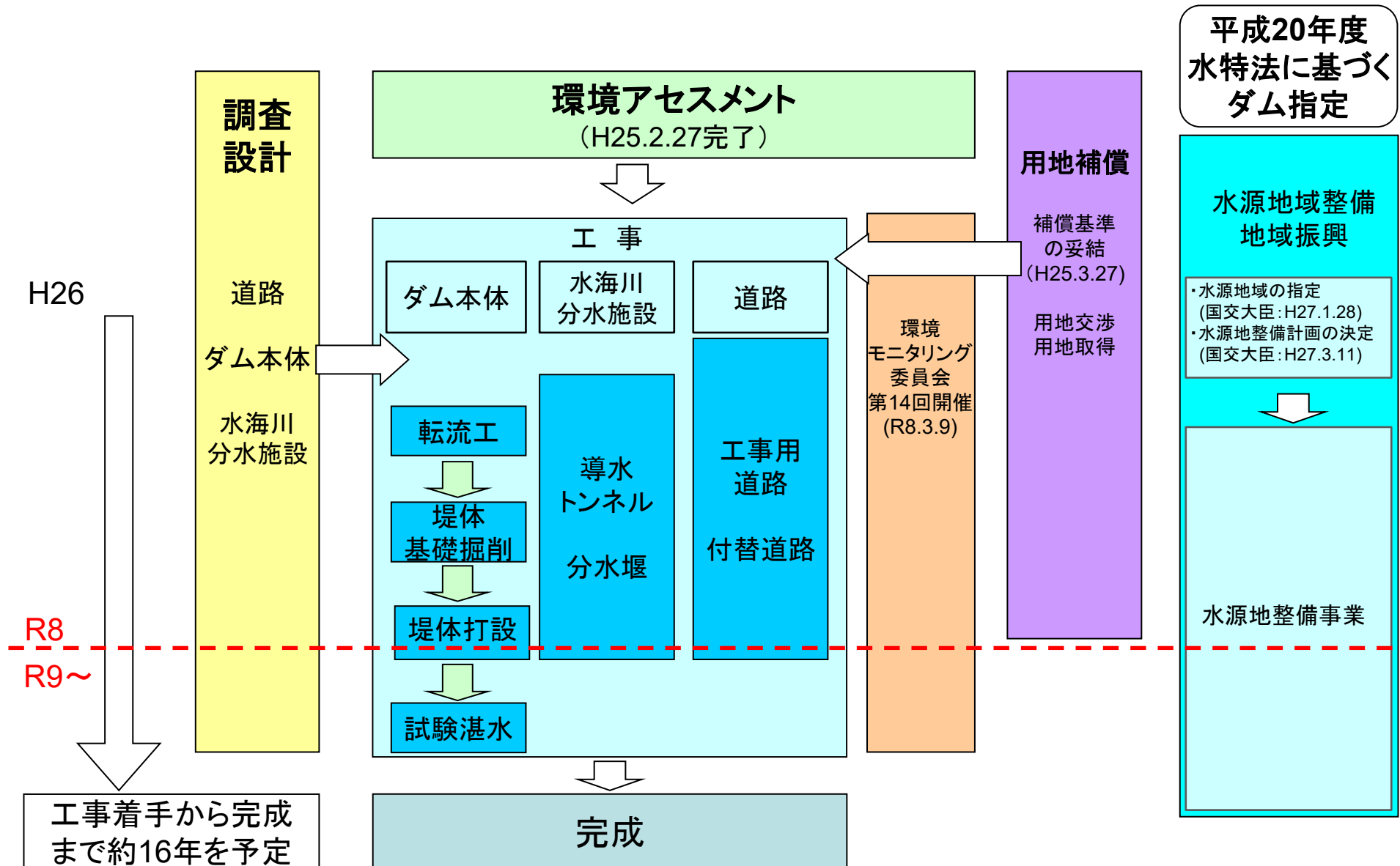
I. 足羽川ダム建設事業の概要

事業の主な経緯・経過

昭和58年 4月	実施計画調査開始
平成 6年 4月	建設事業に移行
平成11年11月	代替ダムサイト候補案の公表 (H9.9ダム審議会より答申。旧ダムサイトは社会的影響が大きい(約220戸の移転)、水没世帯が少なくなるように最善の努力。H19年2月河川整備計画によりダムサイトを正式決定)
平成16年 7月	福井豪雨による甚大な被害の発生 (死者行方不明者5名、重軽傷者19名、住居全半壊196戸、床上浸水3,313世帯、床下浸水10,324世帯(福井県地域防災計画 資料編 H29.3))
平成18年 2月	九頭竜川水系河川整備基本方針策定
平成19年 2月	九頭竜川水系河川整備計画策定 (I期工事(足羽川ダム・水海川導水路・水海川分水工)が位置付け)
平成20年 8月	平成20年度九頭竜川水系足羽川ダム事業費等監理委員会(第1回目)の開催
平成22年12月	ダム事業の検証に係る検討を開始
平成24年 7月	ダム事業の検証において、事業継続の対応方針決定
平成25年 3月	足羽川ダム建設事業に伴う損失補償基準の締結 まつがたに ほうきょうじ おおの
平成26年 6月	足羽川ダム建設事業(県道松ヶ谷宝慶寺大野線付替工事)着工式
平成27年 1月	水源地域対策特別措置法に基づく、足羽川ダムに係る水源地域の指定
平成27年 3月	水源地域対策特別措置法に基づく、足羽川ダムに係る水源地域整備計画の決定
平成27年 8月	事業等について再評価が実施され、事業継続の対応方針決定
平成29年 7月	足羽川ダム建設事業(水海川導水トンネル工事)起工式
平成30年 3月	転流工事 着工
令和元年 8月	事業等について再評価が実施され、事業継続の対応方針決定
令和 2年11月	転流工通水開始
令和 2年11月	本体工事 着工(足羽川ダム本体建設工事起工式)
令和 4年10月	本体コンクリート打設開始
令和 4年11月	足羽川ダム定礎式
令和 5年 7月	事業等について再評価が実施され、事業継続の対応方針決定
令和 5年12月	九頭竜川水系河川整備基本方針(変更)

Ⅱ．事業の進捗状況

Ⅱ. 事業の進捗状況



Ⅱ．事業の進捗状況

事業完了までに要する必要な工期（案）

：クリティカル

種 別		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
ダム 堤 体 の 工 事	仮排水路トンネル(転流工)																
	ダム本体掘削(堤体基礎掘削工)																
	堤体打設																
	管理設備工・放流設備工																
工事用道路(工事用道路の設置工事)																	
導水トンネル(導水施設(分水堰含む)の工事(部子川～水海川))																	
建設発生土の処理																	
付替道路(道路の付替工事)																	

※今後行う詳細な検討結果や設計成果、予算の制約や入札手続き等によっては、見込みのとおりとならない場合がある。

Ⅱ．事業の進捗状況

(令和8年6月末時点)

補償基準		H25.3 損失補償基準妥結 (地権者との用地補償等に係る基準は全て妥結)	
用地取得 (約159ha)		100% (約159ha)	
家屋移転 (68戸)		100% (68戸)	
付替県道 (6.1km)	計画	73.8% (4.5km)	26.2% (1.6km)
	実績	87.4% (5.3km)	
付替町道 (4.5km)	計画	40.0% (1.8km)	60.0% (2.7km)
	実績	40.9% (1.8km)	
ダム本体及 び関連工事	計画	仮排水トンネル 100%	基礎掘削 100%
	実績	仮排水トンネル 100%	基礎掘削 100%
	計画	コンクリート打設(691千m ³) 82.2%	試験湛水
	実績	コンクリート打設(672千m ³) 97.1%	試験湛水
導水施設	計画	導水トンネル(4.7km) 100%	分水施設(掘削) 64.3%
	実績	導水トンネル(4.7km) 100%	分水施設(掘削) 56.2%

凡例

R7年度末:

R8年度末:

R9年度以降:

R8年6月末実績:

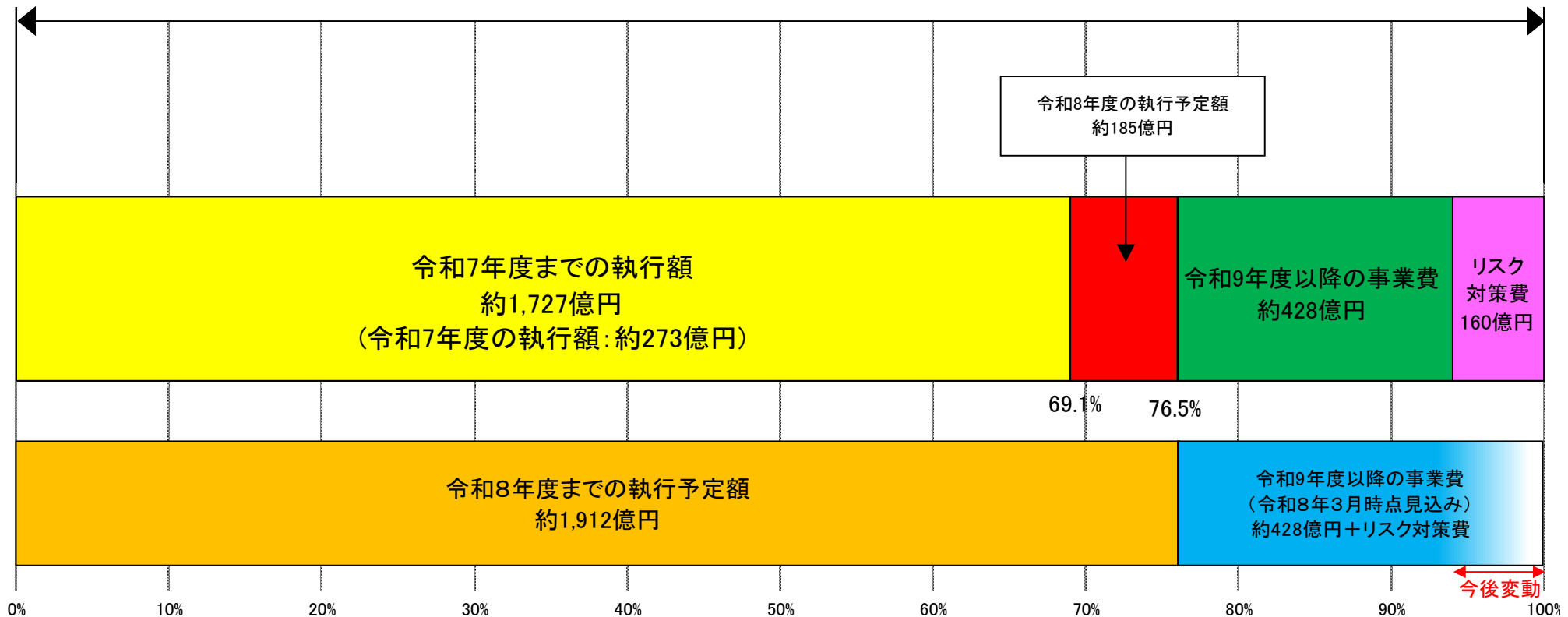
※付替県道・町道の進捗率は、舗装を除く契約ベースによるもの

Ⅱ. 事業の進捗状況(全体事業費の執行状況及び予定)

- 令和7年度までの執行額は約1,727億円で、令和8年度は約185億円を執行予定である。
- 令和5年時点で予見し得なかった物価上昇率及び地質、災害復旧関連などに対してリスク対策費を充当。
- 今後の物価上昇率により上記金額は増減する。

全体事業費 2,500億円

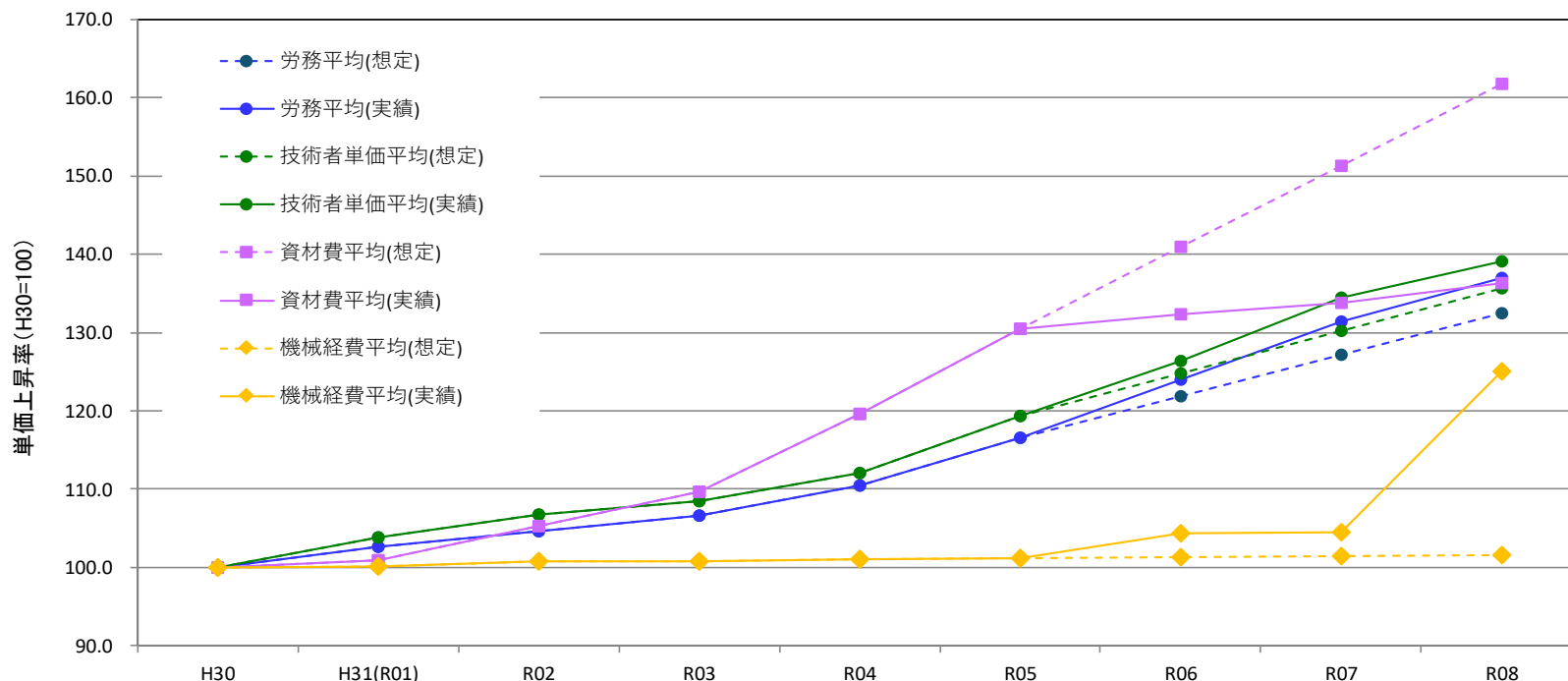
(令和8年4月末時点)



※ 上記表示額は令和8年4月時点のものであり、今後精算等により変更があり得る。
なお、上記表示額は、四捨五入の関係から、計算が合わない場合がある。
※ 令和8年度の執行予定額は、当初配分額を表示している。

Ⅱ. 事業の進捗状況(全体事業費の執行状況及び予定)

- R8年度も公共工事関連単価は上昇傾向にあり、資材費は横ばいになりつつあるが、労務・技術者単価及び機械経費は事業費改定時想定より上昇率が高い傾向にある。



	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
労務平均(想定)	—	—	—	—	—	—	121.9	127.1	132.4
労務平均(実績)	100.0	102.7	104.6	106.7	110.4	116.6	123.9	131.5	137.0
技術者単価平均(想定)	—	—	—	—	—	—	124.8	130.3	135.7
技術者単価平均(実績)	100.0	103.8	106.7	108.5	112.0	119.4	126.3	134.5	139.1
資材費平均(想定)	—	—	—	—	—	—	140.9	151.3	161.8
資材費平均(実績)	100.0	100.9	105.2	109.7	119.6	130.5	132.3	133.8	136.3
機械経費平均(想定)	—	—	—	—	—	—	101.3	101.5	101.6
機械経費平均(実績)	100.0	100.1	100.7	100.8	101.0	101.2	104.4	104.5	125.1

中東情勢の変化による建設資材への影響に係る直轄工事の対応について

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



Press Release

令和 8 年 6 月 16 日
大臣官房技術調査課
大臣官房公共事業調査室
大臣官房官庁営繕部計画課

中東情勢の変化による建設資材への影響に係る直轄工事の対応について ～受注者が安心して施工・受注できる環境の整備に向けた取組～

国土交通省は、ナフサを由来とする建設資材について、代替資材を調達した場合等、追加で必要となる内容を設計変更する運用を導入し、受注者が安心して施工・受注できる環境を整備します。

国土交通省では、ナフサを由来とする建設資材について、昨今の中東情勢の変化に伴って生じている供給の偏りや流通の目詰まりの解消に努めているところです。

今般、中東情勢の変化を踏まえ、ナフサを由来とする建設資材について、代替資材の調達や流通経路の見直し等、追加で必要となる内容を設計変更する運用を、直轄工事において導入します。

本運用については、令和 8 年 6 月 16 日以降、既契約工事を含め全ての直轄工事に適用することとし、受発注者間で協議の上、適切に対応することとします。

<問合せ先>

大臣官房技術調査課 建設システム管理企画室 企画専門官 神宮
TEL : 03-5253-8111 (内線 22353)、03-5253-8221 (直通)

大臣官房 公共事業調査室 課長補佐 佐藤
代表 : 03-5253-8111 (内線 24296)、03-5253-8258 (直通)

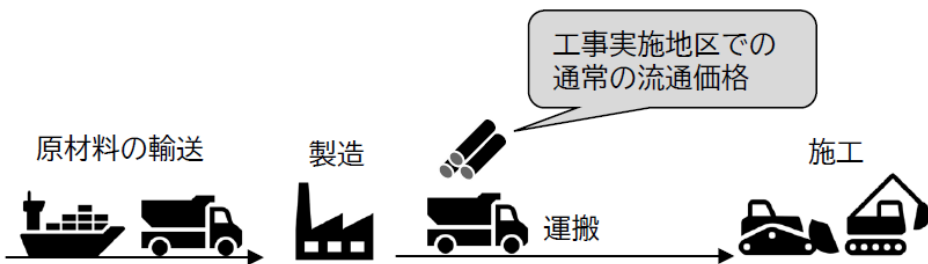
大臣官房官庁営繕部計画課 営繕積算企画調整室 営繕積算高度化対策官 柳
代表 : 03-5253-8111 (内線 23243)、03-5253-8236 (直通)

中東情勢の変化による建設資材への影響に係る直轄工事の対応について

- 国土交通省では、昨今の中東情勢の変化に伴うナフサを由来とする建設資材について、供給の偏りや流通の目詰まりの解消に努めているところ。
- 受注者が安心して受注・施工できる環境を整備する観点から、ナフサを由来とする建設資材について、代替資材の調達や流通経路の見直し等、追加で必要となる内容を、受発注者間協議の上、設計変更する運用を、直轄工事において導入。

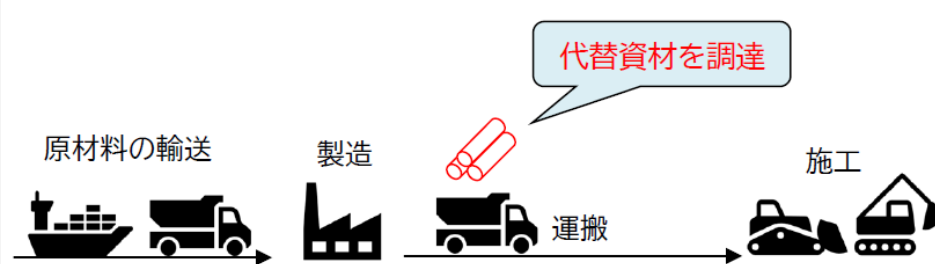
当初契約

工事実施地区での通常の流通価格により資材を調達



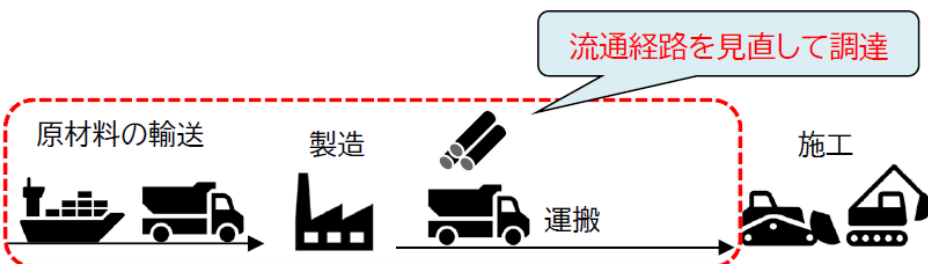
設計変更 (ケース①)

代替資材を調達
→ 代替資材で設計変更



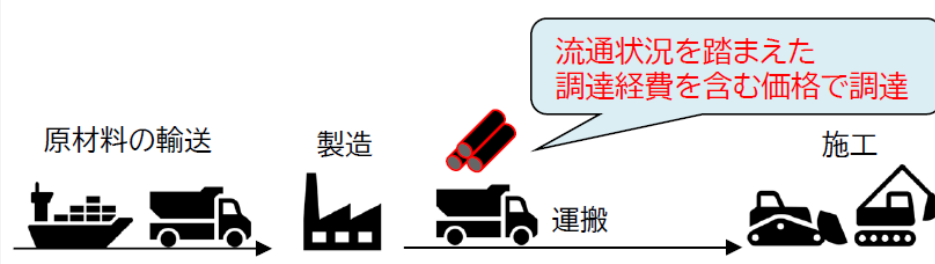
設計変更 (ケース②)

設計図書どおりの資材を流通経路を見直して調達
→ 調達地区の価格(運搬費も考慮)で設計変更



設計変更 (ケース③)

設計図書どおりの資材を調達
(ただし、流通状況を踏まえた調達経費が反映された価格)
→ 実際の調達価格で設計変更



令和8年度は、約185億円をもって、以下の内容を実施します。

■ 工事費 約 127億

- ・ダム本体(堤体打設)工事及び原石山の掘削工事を継続して実施します。
- ・水海川導水トンネル工事及び水海川分水施設関連(分水堰)工事を継続して実施します。
- ・管理に向けた管理棟・電気機械関係設備の整備を実施します。

■ 用地及び補償費 約 37億

- ・付替道路工事を継続して実施します。

■ 測量設計費等 約 21億

- ・ダム関連施設(管理設備含む)の設計及び必要となる調査を継続して実施します。
- ・水位・流量観測、雨量観測、河川の水質観測や気象観測、環境モニタリング調査を継続して実施します。

Ⅱ.① 令和8年度実施内容



至 福井市

[8] 足羽川ダム付替県道2工区土工3小畑地区整備工事

[9] 足羽川ダム付替県道3号橋上部工事

[10] 足羽川ダム付替県道2工区土工4改良工事

[11] 足羽川ダム付替県道4号橋他工事

[1] 足羽川ダム本体建設(第2期)工事

[2] 足羽川ダム放流設備スクリーン新設工事

[12] 足羽川ダム付替県道4工区土工7橋梁背面改良工事

[13] 足羽川ダム付替県道4工区土工9整備工事

[18] R7足羽川ダム付替県道4工区擁壁工事

[14] 足羽川ダム付替県道9号橋他1橋上部工事

[19] R7足羽川ダム付替県道4工区土工10整備工事

[1] 足羽川ダム本体建設(第2期)工事

[24] 足羽川ダム付替町道広瀬千代谷線6工区改良工事

[23] 足羽川ダム付替町道下荒谷線上流工区改良工事

[16] 足羽川ダム付替県道千代谷地区橋梁背面改良工事

[20] R7足羽川ダム付替県道6工区土工15他整備工事

[17] 足羽川ダム付替県道16号橋上部工事

[15] 足羽川ダム付替県道9号橋他1橋上部工事

[22] R8足羽川ダム付替県道6工区土工16改良他工事

[21] R8足羽川ダム付替県道6工区上流落石防護他工事

[28] R8足羽川ダム管内維持作業(事業地内全域)

令和8年度新規施工箇所
 施工中箇所
 施工完了箇所
 未施工箇所

[25] R7足羽川ダム受変電設備他設置工事

[26] R7足羽川ダム管理用制御処理設備設置工事

[27] R7足羽川ダム管理支所新築工事

[1] 足羽川ダム本体建設(第2期)工事

[12] 足羽川ダム付替県道4工区土工7橋梁背面改良工事

[2] 足羽川ダム放流設備スクリーン新設工事

[18] R7足羽川ダム付替県道4工区擁壁工事

[13] 足羽川ダム付替県道4工区土工9整備工事

付替町道 広瀬千代谷線
 付替林道 小部子線
 金見谷川
 導水トンネル1期工事
 (0m~2497m)
 至 水海川

[6] R7水海川分水堰小容量放流ゲート設備新設工事

導水トンネル2期工事
 (2467m~3970m)

導水トンネル3期工事
 (3970m~4717m)

[3] 水海川導水トンネル3期工事

[7] 水海川導水路呑口ゲート設備新設工事

[5] 水海川分水堰洪水吐ゲート設備新設工事

[4] 足羽川ダム水海川分水堰工事

事業予定地内でボーリング調査等を実施予定

※事業の進捗状況により、追加工事等が発生する場合があります

令和8年6月30日時点 16

Ⅱ.① 令和8年度実施内容

ダム本体等調査設計、水理・水文、環境モニタリング調査等

- ダムの管理・運用に向けて、管理設備に必要な計画検討を行う。
- 水位・流量観測、雨量観測、河川の水質観測や気象観測等を継続して実施。
- 環境影響評価書(公告 H25.2.27)に基づき、事業区域とその周辺の環境モニタリング調査及び環境保全措置を実施。



流量観測の実施状況(部子川小畑地区)



環境調査(猛禽類)の実施状況

Ⅱ.② 事業進捗 足羽川ダム本体建設工事について

○ダム本体（堤体打設）工事及び原石山の掘削工事等を実施

■工事内容

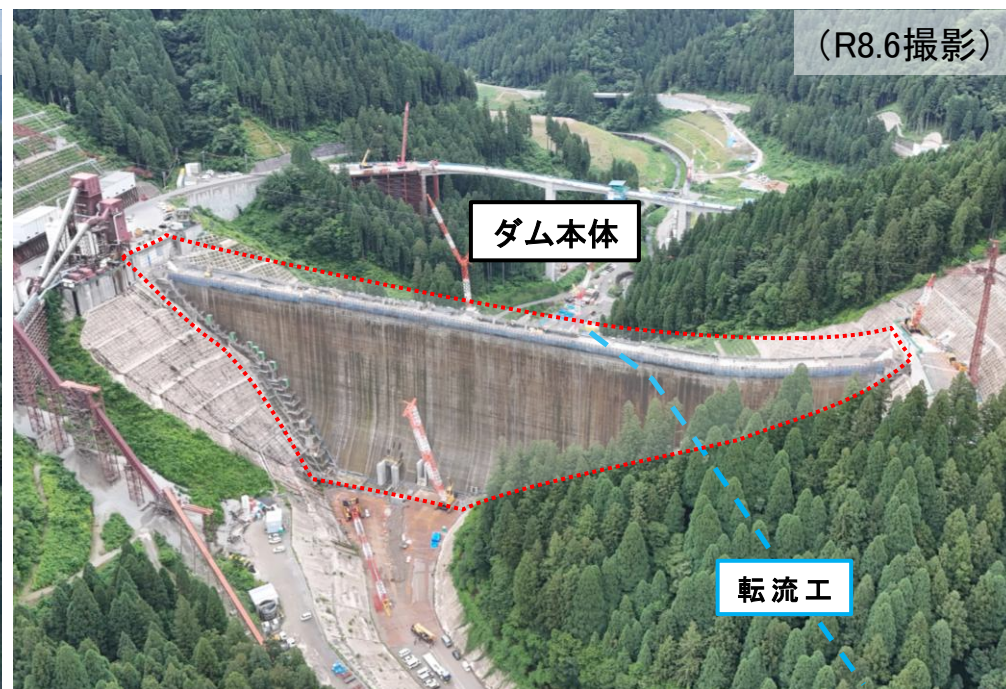
令和2年度より、ダム本体建設工事に着手し、令和4年10月に基礎掘削完了、コンクリート打設に着手。令和8年度6月末時点で約97%まで打設。

全景（ダム地点下流側より撮影）

（ダム地点上流側より撮影）



部子川（転流済み）

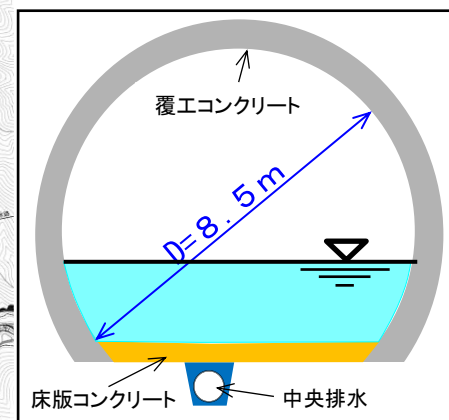
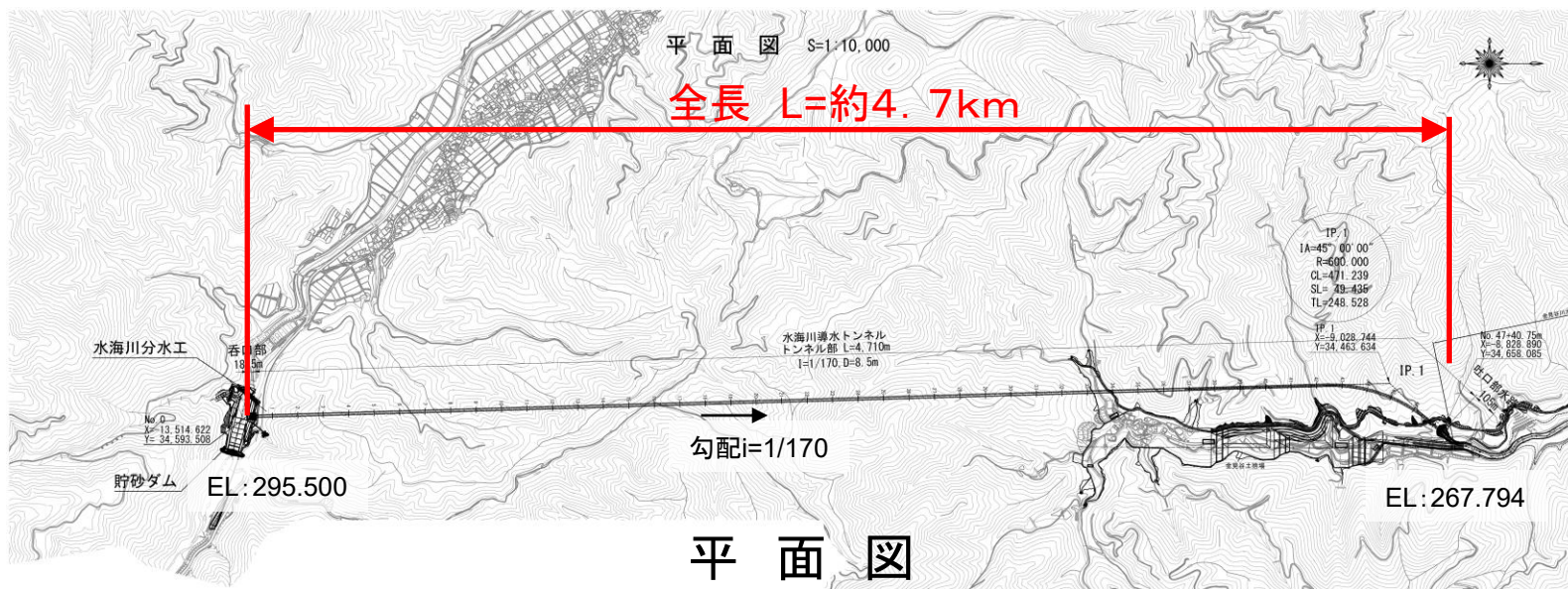


部子川（転流済み）

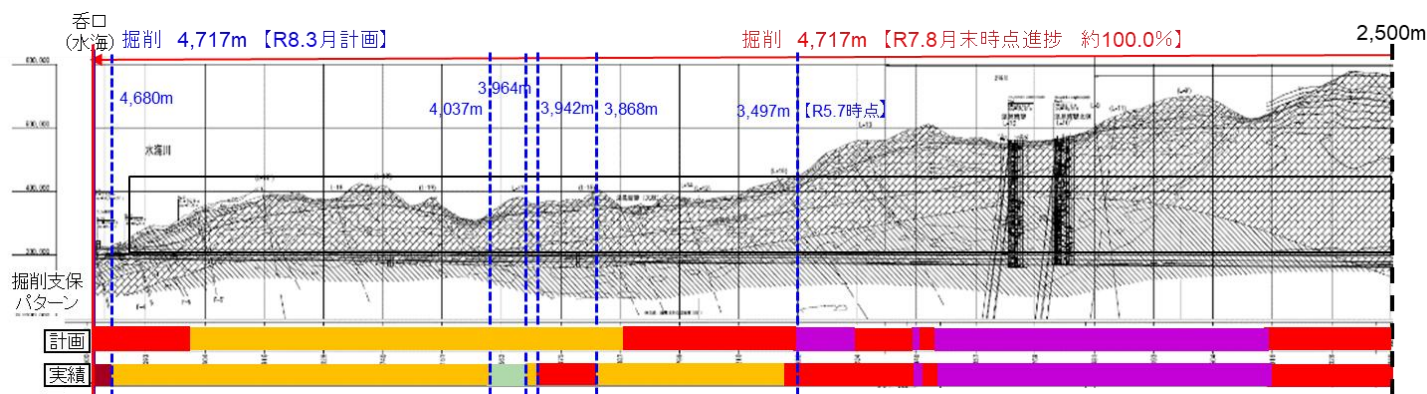
Ⅱ.② 事業進捗 水海川導水トンネル工事について

○トンネル全延長4,717mに対して、令和7年8月に掘削完了。

令和2年10月16日に水海川導水トンネル技術検討委員会を設置し計7回開催、令和8年1月13日に開催した委員会にて、トンネル全長の掘削が完了した事を確認した。



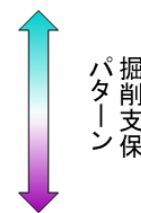
標準断面図



掘削支保パターン
凡例

- C I
- C II
- D I
- D II
- D III
- E I
- E II

地山の状態が良い



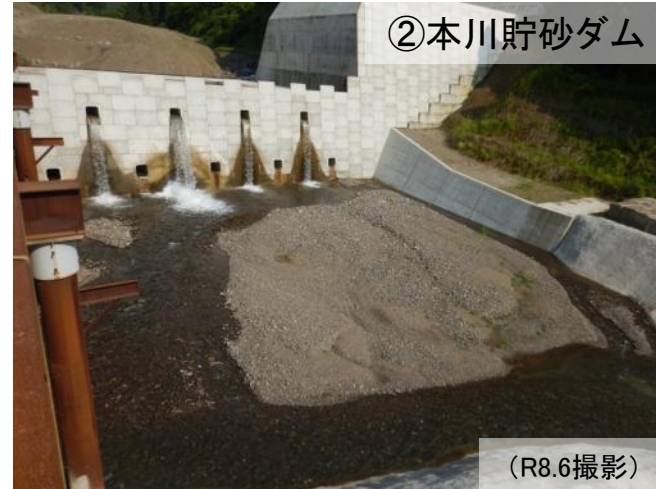
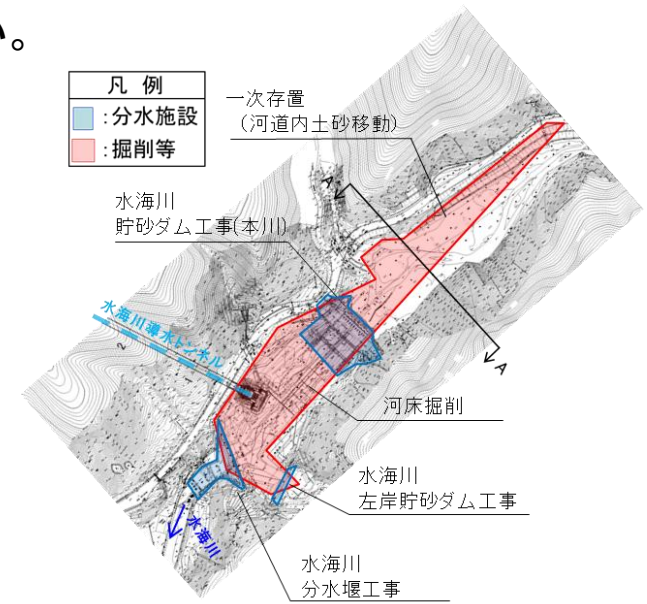
地山の状態が悪い

Ⅱ.② 事業進捗 水海川分水施設工事について

令和4年度より水海川分水施設関係工事に着手。

令和8年6月末時点の進捗率は 分水施設（掘削）約56%、分水施設（打設）約47%

水海川導水トンネル呑口部の仮設の二重締め切りについて、想定外の悪い地質への対応及び検討で着工が遅れたものの、現時点では全体工期に遅れは生じていない。

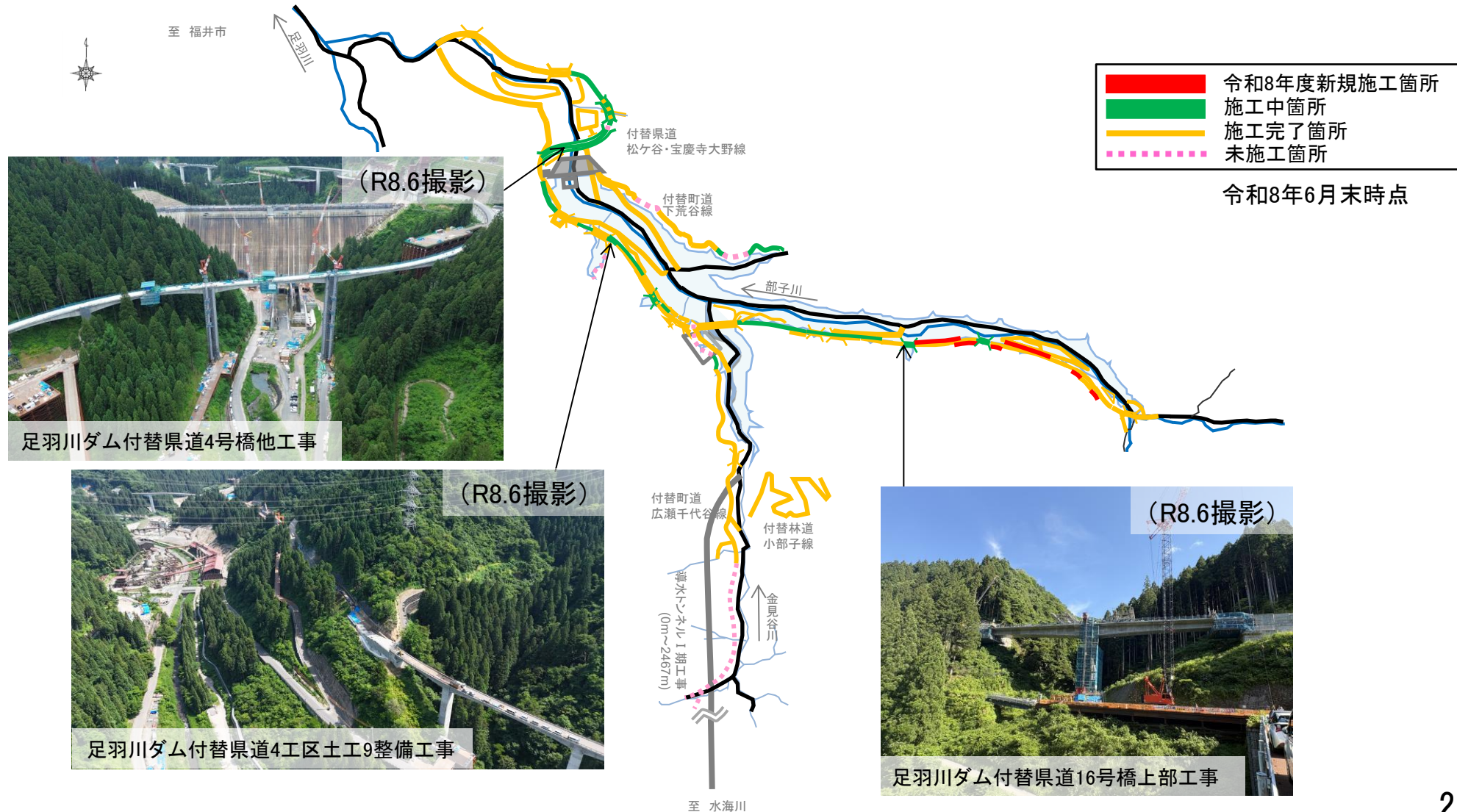


Ⅱ.② 事業進捗 付替道路工事について

■ 工事内容

平成25年度より付替道路事業に着手。

令和8年度6月末時点で、付替県道については約87%、付替町道については約41%の進捗率。



『第14回 足羽川ダム環境モニタリング委員会』の開催（R8.3.9）

【モニタリング委員会概要】

日時：令和8年3月9日

目的：足羽川ダム工事の現地着手するにあたり、評価書を踏まえ実施する環境調査や環境保全措置等の内容について、環境面から専門家の意見を伺うことを目的に開催

委員会メンバー：

委員長：福原輝幸（福井大学 名誉教授：水環境）

委員：上野裕介（石川県立大学 生物資源環境学部

環境科学科 准教授：鳥類・生態系）

：奥村充司（福井工業高等専門学校

環境都市工学科 非常勤講師：水環境）

：松田隆喜（福井県立道守高等学校 教諭：魚類）

：松本淳（越前町立福井総合植物園 園長：植物）

（50音順・敬称略）

委員会結果：令和7年モニタリング調査結果と環境保全措置の内容及び令和8年モニタリング調査計画（案）について、今後の調査及び環境保全措置の実施計画を確認。



委員長挨拶



委員会開催状況

Ⅱ.③ 前回委員会以降の取り組み報告

◎令和7年度環境保全調査及び第14回足羽川ダム環境モニタリング委員会への報告

○クマタカ繁殖状況の調査と結果

委員会資料抜粋

■Aペア

【繁殖結果】 繁殖なし

・令和6年12月～令和7年8月にかけて、令和6年生れの若鳥が確認されており、令和7年は、子育てを行っていると考えられ、新たな繁殖はなかった。

■Bペア

【繁殖結果】 繁殖なし

・令和6年12月～令和7年10月にかけて、令和6年生れの若鳥が確認されており、令和7年は、子育てを行っていると考えられ、新たな繁殖はなかった。

■Dペア

【繁殖結果】 繁殖なし

・令和7年3月には交尾が確認された。令和6年12月～2月における巣皿での造巣行動は2度のみであった。3月に入ってから産卵等の行動は見られず、繁殖を中断したと考えられる。

■Eペア

【繁殖結果】 繁殖なし

・令和6年12月～令和7年5月にかけて、令和6年生れの若鳥が確認されており、令和7年は、子育てを行っていると考えられ、新たな繁殖はなかった。

【委員からの意見】

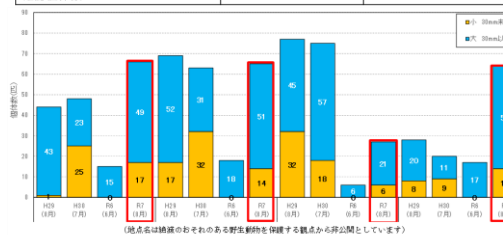
クマタカDペアの繁殖失敗について、工事騒音による影響は低いと考える。今後も引き続き調査を実施していくこと。

令和8年3月9日開催
第14回足羽川ダム環境モニタリング委員会

○アジメドジョウの平常時と出水後の生息環境調査と結果

委員会資料抜粋

	H30出水時調査	R7平常時調査
調査日時	H30.07.10～11	R7.08.19～21
アジメドジョウ確認箇所の平均水温	20.3℃	25.9℃
確認個体数	206	222



・R7平常時調査では、全体で222個体を確認し、大型個体(体長30mm以上)が171個体、小型個体(体長30mm未満)が51個体であった。
・各地点で小型個体が一定数確認されており、ダム下流河川においてアジメドジョウの繁殖環境が維持されていると考えられる。

※ 体長30mm未満を当歳魚(調査年に生まれた個体)として区別

【委員からの意見】

水温は20℃～25℃の間で調査を実施し、生息場所、個体の大きさを加味した調査結果とすること。
アジメドジョウは2つのタイプ(斑紋収束型・斑紋分散型)がいるため、どのタイプが部子川に生息しているか調査すること。

◎令和8年度環境保全計画

◇クマタカ繁殖状況の調査

令和7年に引き続き定点調査にて繁殖特性や営巣地周辺における生息状況の把握のための調査。
CCDカメラにより巣内の状況を動画にて記録。騒音計を営巣木に設置し工事騒音に伴うクマタカの反応に関する解析を実施し、今後の保全措置に資する基礎データを取得する計画。



クマタカ



定点調査



CCDカメラ画像



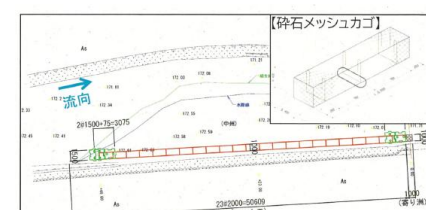
騒音測定機器設置

◇アジメドジョウの平常時と出水後の生息環境調査

令和7年に引き続きアジメドジョウの生息状況及び生息環境の調査として河川の高濃度濁水発生後や大規模流量発生後に捕獲や潜水観察・採水及び分析を実施し、生態的特性の把握や、シェルター試験施行箇所における生息状況の確認を行う計画。



アジメドジョウ



シェルター試験施工(イメージ)

Ⅲ. 委員会における指摘事項

■ 前回委員会における結果概要

● 委員からのご意見及び助言

- ダム本体関連工事等のコスト縮減のタイミングを逃さないよう、随時、実施を進めること。
- 流水型ダムの特性を踏まえた合理的な試験湛水計画を検討すること。
- 引き続き、コスト縮減・工期短縮に努めること。

委員会での指摘事項

青文字：前回指摘事項

赤文字：今回報告

■ 主な指摘事項

- ① 足羽川ダム本体建設工事におけるDX活用の効果を定量的に評価できるように検討する他、流水型ダムの特性を踏まえたダム本体建設費の合理化を図ること。

ダム本体のカーテングラウトについて、施工工程を考慮した上で、引き続き流水型ダムの特性を踏まえた合理化に関する検討を進めること。

⇒ 流水型ダムの特性を踏まえた合理化について**実施中**。

- ② 水海川導水トンネルの施工における地質状況の把握において、引き続き調査を行い、精度向上および施工の最適化を図ること。

⇒ **委員会各回で提案された施工方針に基づき適切に施工がなされ、令和7年8月に掘削完了。**

「水海川導水トンネル技術検討委員会」についても令和8年1月にトンネル全長の掘削が完了した事を確認した。

- ③ 水海川分水施設について、土砂の管理・対策などの将来の維持管理面を考慮した更なる検討を行うこと。

⇒ 現在土砂収支を算出中であり、今後維持管理計画に反映していく予定である。

委員会での指摘事項

青文字：前回指摘事項

赤文字：今回報告

■ 主な指摘事項

- ④ 水海川導水トンネル吐口部から下流側において、洪水の流下に伴う影響（洗掘など）について水理模型実験結果も踏まえ、必要な対策を検討する。
⇒ 導水トンネル吐口部から下流対策について引き続き検討中。
- ⑤ 試験湛水期間中及び管理移行後の洪水調節池内の樹木管理については、伐採木の有効利用について引き続き検討する。
⇒ 試験湛水計画及び維持管理計画について検討中。
- ⑥ ダム本体工事の本格化を踏まえ、引き続きコスト縮減および工事過程を含めた観光資源価値を活かす検討を行うこと。
⇒ 県・町を含めた「足羽川ダムを活用した地域活性化検討会」を令和8年2月に設置。→ページ30へ
- ⑦ 生息魚類等について、モニタリング調査を継続し、魚道完成後の機能の評価に活用していくこと。
⇒ モニタリング調査を継続し、評価に活用していく。

委員会での指摘事項

青文字: 前回指摘事項
赤文字: 今回報告

■ 主な指摘事項

- ⑧ ダム本体打設について、社会的要因の変化に対応した工期短縮の可能性について、更なる検討を行うこと。
⇒ 遅延材を活用した工期短縮について検討中。
- ⑨ 建設発生土の有効活用について、更なる検討を行うこと。
⇒ 付替道路等への土砂活用について実施中。
- ⑩ 試験湛水計画について、どこまでの水位で実施するのか必要性について検討すること。
試験湛水が1非出水期で水が溜まりきらない場合について検討すること。
CCTV等を活用したデジタル技術のコスト縮減と短縮案の双方を加味した試験湛水計画を作成すること。
⇒ R10の試験湛水までに、ご指摘頂いた内容について検討する。

委員会での指摘事項

青文字: 前回指摘事項
赤文字: 今回報告

■ 主な指摘事項

- ⑪ 流水型ダムの特性を踏まえた試験湛水計画の中で、コスト縮減及び工期短縮に向けた適切な対策方法を検討する事。
 - ⇒ 高標高部のグラウト施工を緩和するなど流水型ダムの特性を活かした施工を現在実施している。
→ ページ36へ
- ⑫ 効率的な維持管理を踏まえた流木対策について検討すること。ダム上流側での流木対策の検討し、スクリーン上部に絡まってもすぐに落ちるなどの内容を設計に反映すること。
 - ⇒ スクリーンの開口部を広くし、平常時には流木は下流に流れ、傾斜を60° にすることにより大木がスクリーンに滞留しないように設計。 → ページ31, 32へ

Ⅲ. 委員会における指摘事項

- ⑥ ダム本体工事の本格化を踏まえ、引き続きコスト縮減および工事過程を含めた観光資源価値を活かす検討を行うこと。

⇒ 県・町を含めた「足羽川ダムを活用した地域活性化検討会」を令和8年2月に設置。

ダムを活用した、様々な情報発信や広報施策を実施することにより、地域活性化を推進する。
令和8年度に地域活性化策とりまとめを実施する予定。

○足羽川ダムを活用した地域活性化検討会の開催

◎第1回 日時: 令和8年2月18日

- ・これまでの取組と今後の取組(事前協議案の提示)
- ・地域活性化施策(案)の提案
- ・検討会規約の承認



第1回開催状況

◎第2回 日時: 令和8年3月26日

- ・第1回検討会の提案内容に対する意見、新たな施策の提案。



第2回開催状況

【構成員】

- ・池田町長
- ・(一財)いけだ農村観光公社 理事
- ・(株)まちUPいけだ 代表取締役社長
- ・池田町商工会 会長
- ・福井県 土木部 河川課長
- ・足羽川ダム工事事務所長

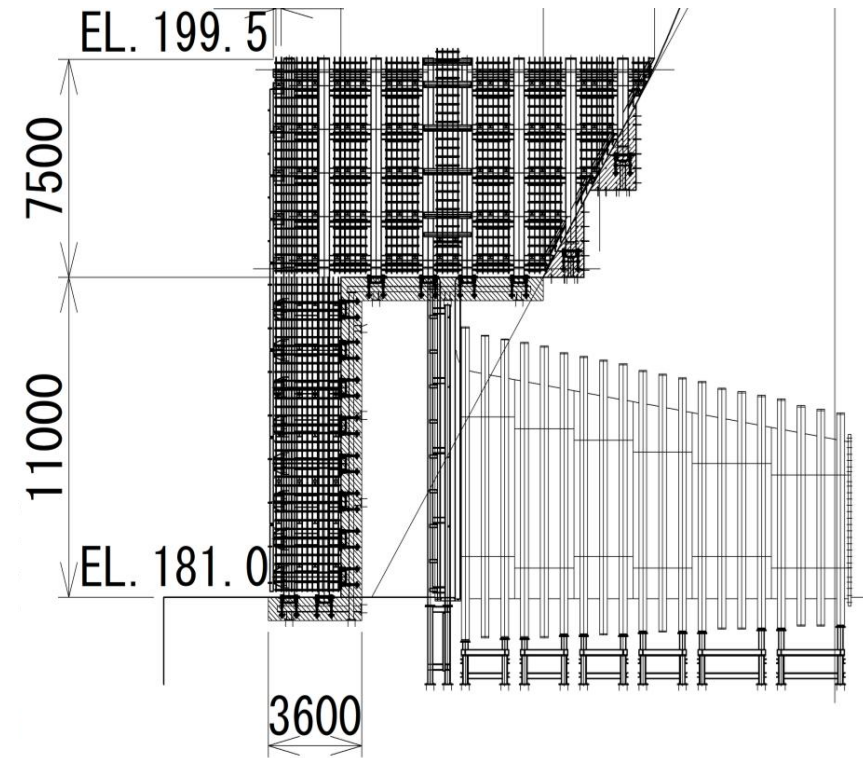
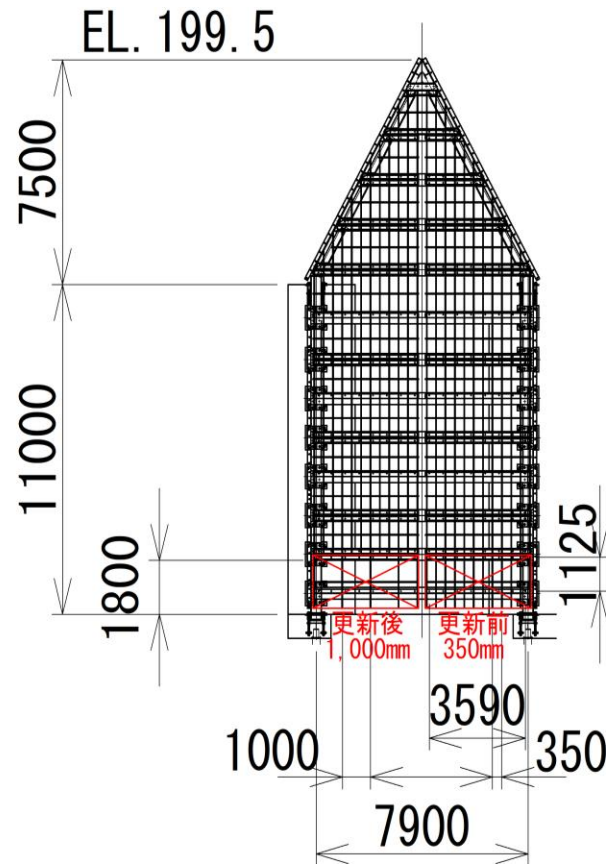
【事務局】

- ・池田町ダム対策室
- ・足羽川ダム工事事務所 調査設計課

Ⅲ. 委員会における指摘事項

- ⑫ 効率的な維持管理を踏まえた流木対策について検討すること。ダム上流側での流木対策の検討し、スクリーン上部に絡まってもすぐに落ちるなどの内容を設計に反映すること。

⇒ スクリーンの開口部を広くすることで、平常時には流木は下流に流れ、傾斜についても、 60° の傾斜にすることで大木がスクリーンに滞留しないように設計。

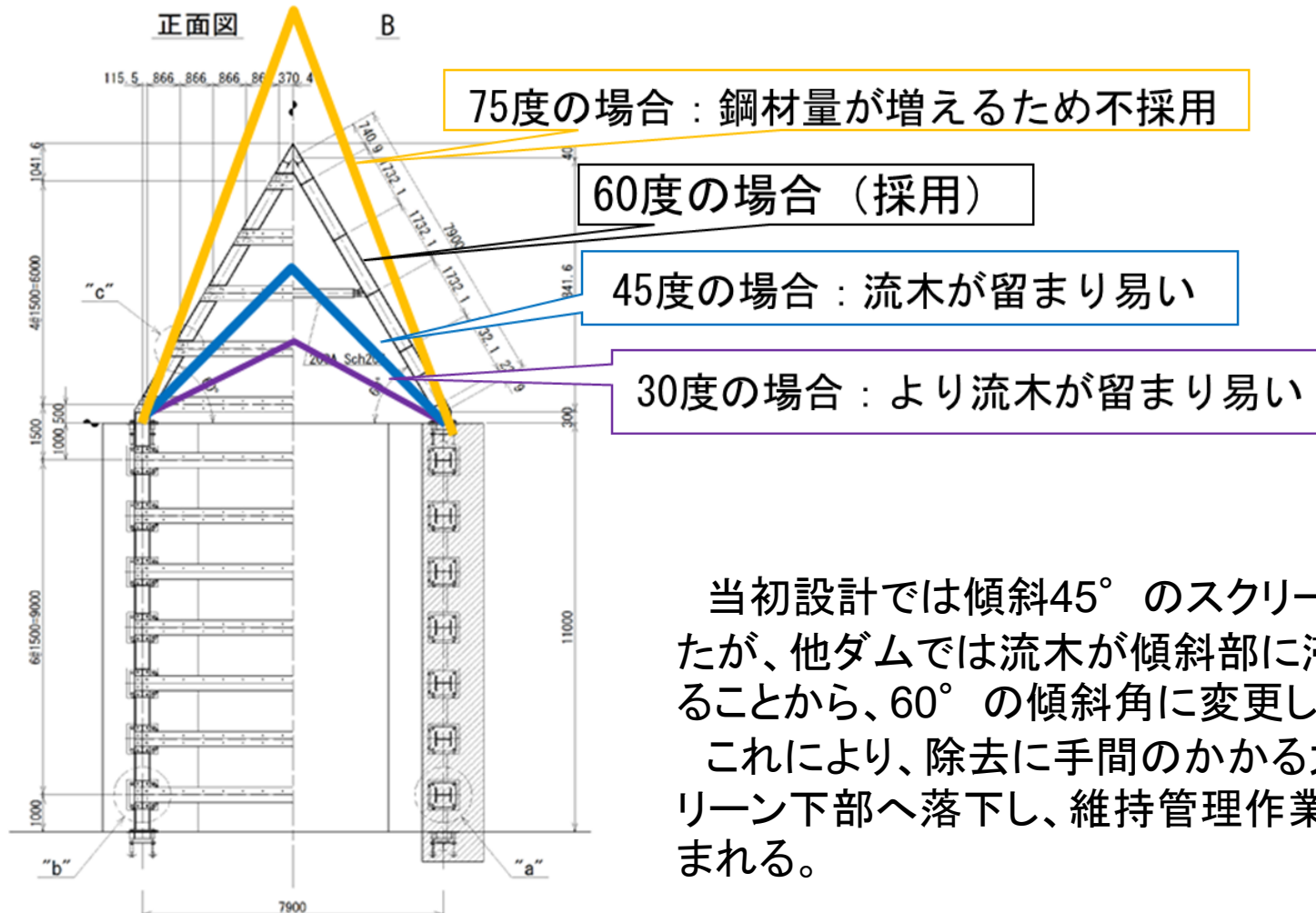


当初設計ではスクリーン下部のピッチを350mmで検討していたが、流木がスクリーンに滞留しにくい構造にするためにピッチ間隔を1000mmに変更。

Ⅲ. 委員会における指摘事項

- ⑫ 効率的な維持管理を踏まえた流木対策について検討すること。ダム上流側での流木対策の検討し、スクリーン上部に絡まってもすぐに落ちるなどの内容を設計に反映すること。

⇒ スクリーンの開口部を広くすることで、平常時には流木は下流に流れ、傾斜についても、 60° の傾斜にすることで大木がスクリーンに滞留しないように設計。



IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

■ コスト縮減・工期短縮の検討に関する一覧表

項 目	コスト縮減	工期短縮	備 考
実施済又は実施中の項目			
① ダム本体堤趾部の置換えコンクリートの省略	●		実施済
② トンネル掘削ズリ及び堤体基礎掘削岩のダム堤体コンクリート用骨材への有効活用	●		実施中
③ トンネル掘削ズリの工事用道路の路盤材等への有効活用	●		実施中
④ 付替林道(小部子線)計画の見直し	●		実施済
⑤ 水海川分水施設におけるソイルセメントの採用	●		実施中
⑥ 足羽川ダム本体建設工事におけるDXの活用 (自動打設システム、締め固め管理システム等)	●	●	実施中
⑦ 水海川導水トンネル工事における減水注入工法の採用	●		実施中
⑧ 減勢工導流壁への購入コンクリートの採用	●	●	実施中
⑨ ダム本体建設工事におけるF-1断層による基礎処理の見直し	●		実施済
⑩ トンネル掘削ズリの付替道路への流用	●		実施中
⑪ ダム本体工事における仮設備の撤去	●	●	実施予定
⑫ 水海川導水トンネル 中央排水工の削減	●	●	実施不可
⑬ ダムコンのシステム統合、構成の簡素化	●		実施予定
⑭ 本体コンクリートの配合の見直し	●		実施中
⑮ 天端橋梁型枠のプレキャスト化	●		実施予定
⑯ 電気設備関連の変更	●		実施予定
⑰ 覆工板の早期撤去による賃料の削減	●		実施予定
⑱ 流水型ダムの特性を踏まえたグラウト施工の見直し	●		実施中
⑲ 濁水処理設備の薬品変更	●		実施中

IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

■ コスト縮減・工期短縮の検討に関する一覧表

項 目		コスト縮減	工期短縮	備 考
今後検討を行う項目				
⑳	ダム貯水池内樹木の伐採範囲の見直し	●		検討中
㉑	水海川右岸支川貯砂ダムの構造変更	●		検討中
㉒	原石山の骨材採取後の埋戻し方法	●		検討中
㉓	遅延剤の活用によるダム堤体打設の工期短縮	●	●	検討中
㉔	R9年度打設範囲の購入骨材への切り替え	●		検討中
㉕	工事用道路を活用した配線ルート変更による電柱移設等の見直し	●		検討中

IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

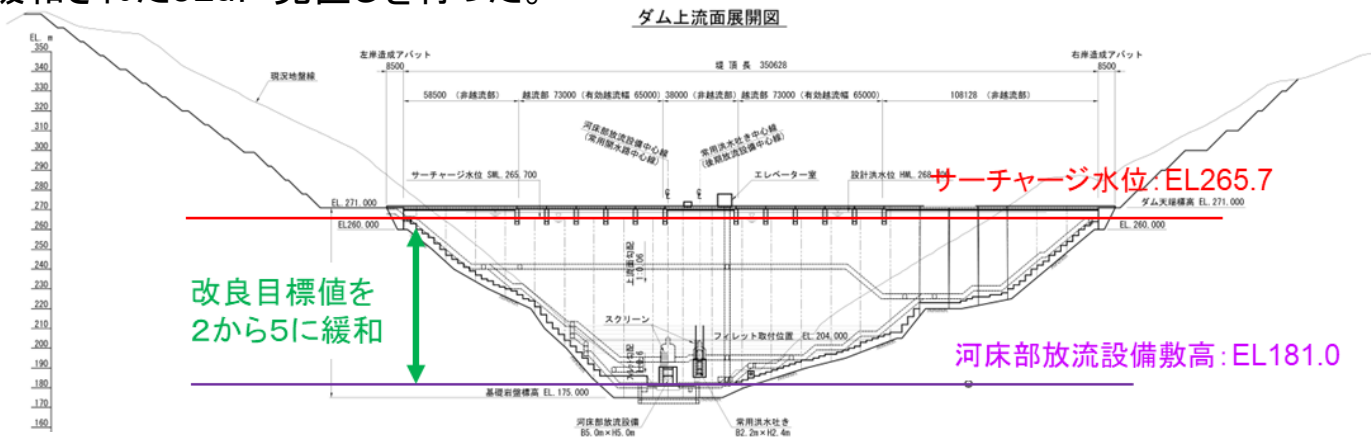
○. コスト縮減

⑩流水型ダムの特性を踏まえたグラウト施工の見直し

○洪水時にのみ水を貯める流水型ダムの特徴を利用し、河床部放流設備敷高からサーチャージ水位間で、グラウト施工の合理化検討を行う。

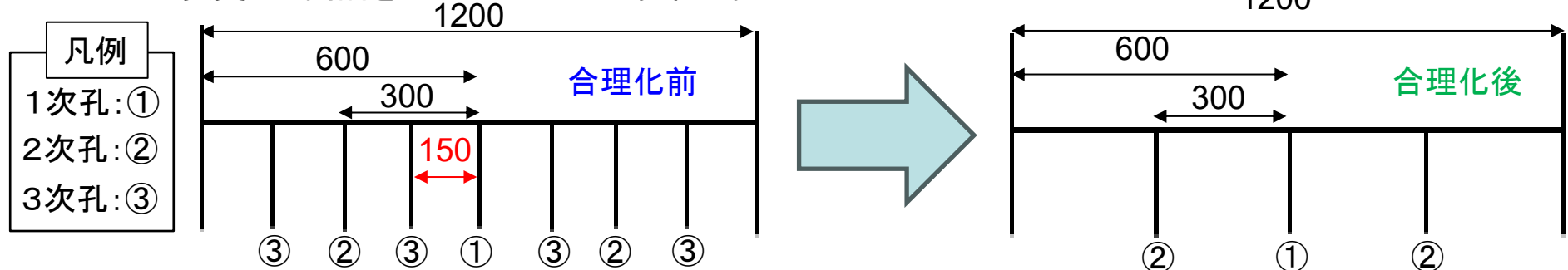
○左右岸の合理化の方針

●河床部放流設備敷高(EL181m)より上の標高の斜面は、平常時は湛水の影響はなく、湛水期間が一時的で湛水による影響を受けないため、改良目標値を基準値内の最も厳しい値の2Luから最も緩和された5Luに見直しを行った。



○左岸の合理化方針

●河床部放流設備敷高(EL181m)より下の施工実績から、透水性の低い地質である可能性が高いため、河床部放流設備敷高(EL181m)より上の標高で施工するグラウトの孔数を3次孔から2次孔に変更し孔間隔を1.5mから3mに見直し。



IV. コスト縮減及び工期短縮の検討状況について

○. コスト縮減

⑱ 濁水処理設備の薬品変更

○ 濁水処置設備の薬品（PH中和剤）を炭酸ガスからのみの使用から希硫酸を併用することでコスト縮減を図る。

● 足羽川ダムの本体打設において、序盤と終盤にはELCM工法を実施し、中盤にはRCD工法を実施している。ELCM工法で使用するコンクリートは、強いアルカリ性の濁水が発生するため、濁水処理設備で酸性の薬剤により中和し、環境基準値まで調整した水を排水している。

● 打設序盤のELCM工法では、炭酸ガスのみを使用していたが、中和に必要な薬剤の実績を踏まえ、打設終盤のELCM工法では、中和剤として炭酸ガスよりもより安価な希硫酸を併用する、炭酸ガス+希硫酸の2段階中和方式へ変更した。



濁水処理設備